

放射線治療センター

Plan 計画

- ・高精度放射線治療の前年度比は、強度変調放射線治療では 1.04 倍、定位放射線治療では 1.47 倍と前年度を超えることができ、さらに延べ放射線治療件数は 1.10 倍となった。
- ・しかし、更なる高精度治療を増加させるためには、老朽化した治療機器の更新が必要となる。現状では、放射線治療機器の耐用年数は 10 年程度と考えられているが、1 台は 26 年目で臨床での使用はほぼ不能な状況で、もう 1 台は今年度で 9 年目となるため、計画的な対応策を計画しなければならない。

Do 実行

- ・高精度放射線治療が適応となる症例が増加しているが、更に症例数を増加するための適応拡大に向けた、医師・技師・看護師らの教育を実施する。
- ・高精度放射線治療を増加するためには、機器更新が必須であり機器更新の準備に向けて、各治療機器メーカーに機器説明を行っていただきその評価を行う。
- ・治療室が昔の基準のため、遮蔽等の様々な問題から現在、どの機器が適しているか評価も行う。
- ・病院執行部に現状説明や申請作業を行う。

Action 改善

- ・高精度放射線治療プロトコルの見直しと精度管理体制の強化を図る。
- ・スタッフ間の役割分担と連携などを含めた業務フローの見直しにより、効率的な運用体制を構築し、働き方改革の推進をする。
- ・継続可能な治療機器更新の中長期的計画の提案を継続する。
- ・高精度放射線治療の適応拡大など、さらなる治療の質向上を検討する。

Check 評価

- ・高精度放射線治療の実施症例数と治療精度、安全性の評価を行う。
- ・新規機器の性能と機能などの評価を行う。
- ・次期機器更新に向けた中長期的な計画を提案する。